

八木健の川柳アート

42

時事川柳のすすめ

川柳を作ることは、評論家になるといっていい。世の動きについて自分の意見を持つことは健全な精神を維持するための基本です。

最近の拙句……

先輩に安倍さんがいる辞任劇
 浄め塩大量に要る大相撲
 安全な食品あるなら教えてよ
 本当は美少年じゃなかったね

特選

選者・川柳アート
 八木健

〔月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者〕



石原 康正 (松山市)

四国旅行の招待状を雨雲に

「雨雲さんに四国旅行をしてもらってはどうか。できれば長期滞在をしていただいて、気に入ったならまた招待状送ります」とは、作者のコメント。童心が生んだ川柳である。

佳作



田辺 進水 (松山市)

美しい人は美人と並ばない

「美人」という用語は差別を生むから最近使われなくなっているが、現実には美人不美人の格差は厳然として、存在する。もともと、美人には美人の苦労があるらしいのだが。



城導寺しん (八幡浜市)

やせ男メタボ男に憧れる

愛媛の方言で、成長することを「太る」という。「メタボ」は最近まで目標だった。それが一転眼の敵にされている。しかし、やせ男からすれば「うらやましい」は実感なのだろう。



金子 亶 (東温市)

マラソンの練習疲れとは残念

ハードな練習も国民の期待に応えようとしてのことだが、度を過ぎてはいかん。野口みずきさんも頑張り過ぎた。土佐礼子さんも頑張り過ぎた。川柳作って批判するのが一番ラクチン。



岩間 昇 (東温市)

金食って金のなる木になれぬとは

投資と考えれば、これほど勘定の合わないものはない。都会の大学に進学してそのまま就職。おばあちゃん、長生きして松山の家に住んでください。空家にすると家が傷みます……。おやおや。

古今の名句

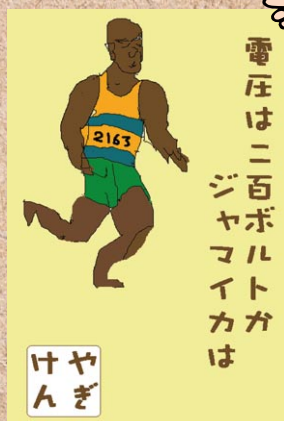


丸山 弓削平

上の子は足だけ母にふれて寝る

明治四十年岡山県生まれ。歯科医師。住みよい郷土づくりを目指して弓削川柳社を立ち上げた。地域の活性化を川柳という運動である。掲出句は、妹か弟ができて……、誰でも体験したこと。

今月の八木健



けやんぎ

電圧は二百ボルトがジャマイカは

電圧は二百ボルトかジャマイカは

北京五輪のジャマイカの陸上は見事だった。中でもウサイン・ボルトの余裕ある走りは憎たらしいものでした。瞬間的に日本人と比較して電圧の違いを実感し納得したものでした。

本コーナーが
 待望の単行本化
 好評発売中!!



「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限りません。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。